



郷土史

ていねい

第 85 号

平成 27 年 1 月 14 日

手稲郷土史研究会会報

第 104 回(平成 26 年 12 月 10 日)定例会の研究発表要旨

< 南アフリカものがたり >

西区 若松 幹男 氏

南アフリカ東海岸のインド洋に面するダーバン、ダイヤモンドが採取される内陸のキンバリーや喜望峰に近いケープタウンを訪れ、各地の地質を見学してきました。

ダーバン：インド洋に面した港湾都市、高級リゾート地であり、スポーツの世界選手権や国連の各機関による国際会議の開催地でもあります（人口 322 万人）。

ダーバン近郊には、カープバール楕状地という花崗岩でできた 30 億年前の地質やナタール変成岩体という花崗岩、片麻岩でできた 10 億年前の地質など、日本で見られない古い地質が分布しています。また、2.5 億年前に世界中の大陸が一つに固まっていた（超大陸パンゲア）ことの証拠である“氷性堆積岩”がみられます。超大陸は 2 億年前に分裂が始まり、ましたが、マダガスカル島はその名残りです。

ダーバンの西側、南アに囲まれたレソト王国は、標高 1,500～3,500m の山地ですが、この山地は、大陸分裂時に生じた亀裂（断層）から噴き出した玄武岩でできています。

キンバリー：1867 年、この地でダイヤモンドが発見されるとイギリスが侵攻、1871 年にこの地をケープ植民地に編入し、世界最大のダイヤモンド鉱山によって町ができました（人口：21 万人）。ダイヤモンドを露天掘りした跡が水をたたえた“ビッグホール”として保存されており、鉱山博物館も併設されています。ビッグホールの大きさは深さ 240m、直径 450m であり、坑道の深さは 1,097m にも達しています。キンバリーの郊外では、今でも、“河床漂砂鉱床”でダイヤモンドの採取が行われています。

ケープタウン：世界的に有名なテーブルマウンテンや喜望峰などを含んだケープ草原のなかにあるヨハネスブルクに次ぐ大都市です（人口：374 万人）。天然の良港があり、日本のマグロ漁船などが寄港しています。

テーブルマウンテンは、大きな斑晶をもつ花崗岩を基盤としてその上に水平な層構造の砂岩がのっています。海岸には粗粒玄武岩が花崗岩を葉脈条に抜く珍しい構造があり、ドーウインも見に来たという碑があります。



テーブルマウンテン

ライオンズヘッド

「2021年の手稲と2071年の手稲」

前田 沖田 紘昭 氏



2021年は手稲開基150年に当り、2071年は開基200年となります。この節目を迎えるに当たって、郷土史研究会員として何かを後世に残せるとしたならこれほど嬉しい事はありません。そこで私の考える開基150年の三つの夢を発表いたしました。

- ①手稲区を郷土史の街にする.できる
- ②手稲の一番の宝は手稲山。手稲山を再発見!
- ③産業遺産手稲鉦山は手稲が宇宙に開く扉になる

①の発表構成は

- ①-1 観光郷土史案内所を設けることと案内業務の受注
- ①-2 郷土史講座を整理し講師派遣事業を推進
- ①-3 昭和の街づくり事業

①-4 後継者の育成

①-5 手稲郷土史会館の建設

①-6 活動の仕組みづくり

この課題は、区役所、商店街、学校、町内会など各種団体との共同作業であり、一人郷土史研究会だけでは道は開きません。十分な準備により計画をま

とめ、お互いが共有するメリットを理解し、幅広く賛同者を集めていく地道な努力が必要になると思われます。

何よりシニアが元気で働く場所があるということが、これから益々重要になると思います。

②の発表構成は

②-1 「テイネの寝太郎」の誕生

②-2 手稲山校歌フェスティバル

②T3 手稲山美術館

およそ5500年前からテイネ人はこの同じ手稲山を見上げ、郷土の山として敬愛してきました。しかしまだ「もの語り」は生まれていません。

この開基150年の機会に手稲には「寝太郎」が確かにいる、と認知しませんか。どうどうたるその姿、形からしても本州の民話に引けを取らないと思います。皆さんが認めるならきっと大きな動きになると思います。研究会にとっても大きな財産になります。

③の発表構成は

③-1 北海道新幹線、「手稲トンネル」の活用

③-2 学習コースづくり

この眼目はなんといっても国土交通省から、鉦山下に当たるトンネル掘削岩を貰い受けることが出来るかどうかにかかっています。貰い受けた石の活用方法もさることながら、どのようにして区民の動きを作り出して行くのか、その行動過程が再び手稲鉦山への注目を呼び起こし、そして地球の学習、宇宙の学習へと誘うことでしょう。新幹線開業が5年早まりました。急がねばなりません。

全てまだまだ未熟な一年目会員の私の夢として語られたものですが、もし一つでも二つでも、賛同者が現れて実現に向けて動き出すことが出来れば、いやたといそままでいなくても、議論のきっかけにでもなれば、これに優る喜びはありません。

尚、無謀にも掲げられた開基200年については、当方の力不足のため、ぼんやりしたイメージすら持つことが出来ませんでした。皆様のお許しを頂いて、これを後日の宿題とさせていただきます。(文責沖田)



4月20日ころ、雪解けに笑う寝太郎

分科会報告

★ 開拓史研究部

先月は、日程が当会の忘年会と重なったため中止しました。次回は4月22日に、テーマは、『残響』の続きを井塚重雄氏に基調提言をいただき話し合う予定でおります（前回の「文芸サークル」例会で、時間不足により全編話し合えなかった）。

★ 文芸サークル

今月の例会は、新年会を兼ねた懇話会としました。なお、来月は宮崎駿監督作品『風立ちぬ』の映画鑑賞会を予定しております。関心のある方は是非ご参加ください。会場は富丘西宮の沢会館で、13時30分からです。会場費として300円、ご協力をお願いします。

★ データ整理部

- ・ 茂内会長の資料集『札幌のむかしばなし』の索引が出来ました。
- ・ 来月までに、当会の研究報告書『手稲鉾山のあらまし』の索引を作ります。
- ・ 今月22日に茂内会長の資料室を見せていただき、今後のデータ整理部の活動方針を検討します。

…… ◇ …… ◆ …… ◇ …… ◆ …… ◇ …… ◆ ……◇ ……

手郷研クイズ（前田農場一その2）

『知られざる手稲と加賀百万石』に次のような記述があります。空欄に適した地名を入れてください。

前田農場、明治27年5月、堀農場全域が藤波言忠、前田清照両氏に移り、7月にはさらに前田家に売却され、前田農場の創立とする。ここに〔1〕を本場に札幌小樽の両牛乳場と雁来村の耕地を有しながら農牧混同経営農業を開始した。明治28年12月、〔2〕において新潟県人森本義質氏の貸下地を譲り受け支場とするわけで、ここで初めて〔2〕の地が前田家の所有地となるのである。（ヒント：P.26参照）

訃報 吉田寛義さん亡くなる

年の暮れの連絡で、12月13日療養先の手稲金山「イムス札幌内科リハビリテーション病院」で死去。大正15年10月20日生まれの満88歳でした。昨年7月9日の定例会で退会届を提出され、リハビリ中でした。

最後のお顔は、会員の川崎様と10月21日病室のベッドで横たわりながらの会話のひとつときでした。30分程でしたが、持論の『前田農場当主前田利為侯』の生き様そのものを伝えてくれた気がします。陸軍士官学校17期生の利為侯、60期生の吉田会員、かなり代の違いこそありますが、自分の居住地たる手稲の前田農場当主と言う因縁めいたものを意識されていたことは間違いありません。前田家という家柄に生きる当主の活動の限界性を理解しつつももう少しあのような悲惨な事故に遭遇せず長生きされ、戦中の世の中を変えて欲しかったという愚痴の一つ二つも残されて旅たったように思えてなりません。最後の遺稿文は、昨年病床にありながら、校正の手をゆるめなかった「東宮駐輦記碑移設記念誌」所収『前田将軍のシベリア出兵反対』です。P39お読み頂き僥んで下さい。

詳しい履歴はお聞きしていませんでしたが、北海道庁お勤めの頃を回想されてか、『手稲村の農地改革よもやま話について』（平成22年10月13日）、『石狩工業港構想の歴史について』（平成24年10月10日）と言う手稲に関わる内容を残してくれました。手稲の歴史年表そのものです。

最後になりますが、10/21の病室を出る時、皇室の「御料林」と北海道の山林についてまで思いが巡ってくるからでしょうか、何か資料があったら知りたいと口にされるのでした。ここまではっきりと話される一つ一つをどう受け止めたらいいのか、むしろ私の方があれこれと思い巡る一瞬でした。結果的に吉田さんの所望する『皇室林野局五十年史』（昭和14年刊）と推定し、大急ぎで11/1コピー数枚病室に送付させて頂きました。亡くなる一月余前です。ここに至っても自分の知りたいことを突き止めたいという吉田さんの姿勢を是非とも記したく思いました。ご冥福をお祈り致します。

会員の広場

手稲区稲苑大学第 14 期生の活動

手稲本町 立花顕次

1. 大学の目的

年長者が、その年齢にふさわしい社会的能力を養い、積極的に生き甲斐とuringおいのある生活を目指す意欲を高めるとともに、学友との交流を深め、まちづくり活動の活性化を図ることを目的に開講する。

2. 開講期間

5月頃から毎週水曜日に20回

3. 大学役員と対象者

学 長 : 手稲区長

副学長 : 手稲区市民部長

対象者 : 手稲区内在住者の満 65 歳以上の方
(4月1日現在)

4. 定員 60名

5. 第14期生 五周年思いでの記念誌より

《渡りに船》

余生の暇つぶし(楽しみ)の一端として親睦会の交流の場パークゴルフ、カラオケをと、楽しい日々もあつと言う間に早5年が過ぎてしまった。ふと立ち返ると思いでのしおりに手が伸び機会があれば、活かして見たいで終わっていた。

平成13年4月に5条4丁目から3条4丁目のマンションに移住し日曜だいく的な事ができず(騒音に規制があるため)好きな技が発揮できずに日々を送り過ぎていた。

そんな思いでいたとき、今年の5月半ば思いもよらぬ絶好の話が舞い込んだ、それは知人が温泉旅館を買い取り住むという、理由は親子2戸で別々にペットを飼って住んでいたが、母親が80才過ぎということもあり、大きめの住まいで一緒に住む計画で求めたようである。

旅館の2階を階段を挟んで、左右別々のすまい構想で、各部屋は畳みと、じゅうたん敷き等でペットとの同居には、不向きな為床の改装計画である。母親側の方は大工に、娘(依頼者)の住まい側は素人の私にと分けられていた。

木製フローア張りは、一戸建マイハウムの時に6畳間一度だけの経験があったが他人の仕事としては初挑戦である。本職との腕比べにはいささか恐れ入った。専門的には、多少の差はあるが見た目は合格に値する。何よりも好きなことができずに過ごしていたころに降って湧いた、まさに「渡りに船」でありストレス解消ができた。

同期の皆様、私のストレス解消に力になってほしいと願っている。

居間からの画窓(デジカメプリント)披露しました。



次回の予定

次回(2月11日)は、野村武雄氏の「昭和初期の軽川風景」および上仙学氏の「札幌本府から手稲区誕生までの変遷」の研究発表を予定しております。

会場は、視聴覚室です。

以上作文嫌いの私でした。